

## 加工・業務用野菜取組事例④(産地・生産者)

調査日(更新日)	平成28年3月9日(平成一年一月一日)
----------	---------------------

## 愛媛県大洲市 農事組合法人 たいよう農園

### 1. 地域の概要(気象・地理・立地・歴史等)

大洲市は愛媛県の南予地方に位置する市で「伊予の小京都」と呼ばれている。肱川の流域にある大洲域を中心に発展した旧城下町で、平坦部を中心に施設のトマト、きゅうり、いちごや露地でのほくさいが栽培され、中山間地において、露地のきゅうりやなす、ピーマンが栽培されている。近年、環境に考慮した取組や高品質生産のための施設化、作業負担を軽減した栽培への取組が進んでいる。

### 2. 産地または生産者の基本情報

事業者名	農事組合法人 たいよう農園
代表者名	代表理事 本田和也
所在地	愛媛県大洲市野佐来162番地20(本社、選果場、加工施設) 愛媛県内子町国営パイロット内(生産ほ場)
連絡先	TEL:0894-33-3557 FAX:0894-33-3332
ホームページ	-
連絡先担当者	代表理事 本田和也

### 3. 経営全体の概要

作目名	キャベツ	たまねぎ
栽培面積	152ha	51ha
出荷量	-	-
販売額	-	-
労働力・構成員	70名(平成28年4月現在)	
生産施設・機械	トラクター、播種機、定植機、収穫機、ホイルローダー、不整地運搬車、パワーシャベル、ブルドーザー、冷凍ウイング	
経営の推移、特徴等 (加工・業務用野菜に取り組んだきっかけ等)	平成18年に露地野菜全般の生産を開始。23年9月からは、市場出荷では安定した経営が図れないため、事前契約による加工用キャベツの栽培取組を開始した。24年には作業効率の高い機械を導入し、キャベツの大量生産体制に着手した。25年にはたまねぎの生産を開始し、26年には加工用たまねぎの製造に取り組んだ。数々の問題解決に向け、リレー出荷契約や、コールドチェーン化、また、自らがカット野菜を製造・販売するなど6次産業化にも取り組んでいる。	

#### 4. 加工・業務用野菜の取組概要

野菜名	たまねぎ	キャベツ
栽培面積	152ha	51ha
出荷量	-	-
販売額	-	-
出荷時期	-	-
出荷先	-	-
契約割合	100%契約	100%契約
出荷形態	鉄コンテナ出荷	鉄コンテナ出荷

#### 5. 栽培上の特徴(作付体系・栽培技術の確立等)

農家との契約を進めるために問題の洗い出しを行い、農家のニーズに対応した生産体制に取り組んでいる。例えば、農家が技術的や労力的な問題から育苗ができないということであれば苗を提供する。収穫ができないということであれば収穫を行う、栽培開始時のイニシャルコストが払えない場合は先払いで料金を支払う、といった様な形で募集をおこなっている。

#### 6. 販売上の課題と対応(出荷先からのニーズ、出荷先への要望等)

輸入品から国産へ置き換えたいという要望が高まっている。大量発注に対応してほしい。

#### 7. 今後の展開方針

キャベツの加エライン、にんじんの全自動皮剥きライン、たまねぎの皮剥機を導入して加エラインの強化を図っていく。

#### 8. 事業者からひと言 <実需者・消費者へのメッセージ等>

農地を耕すことは国を耕すこと、日本の農業問題の解決を願っています。作物を選択し、そこへ経営資源を集中しています。日本一の農業生産や食品加工のスペックの機械・施設をを保有しています。生産・加工・冷蔵・物流・販売と生産から販売までを一元管理して6次産業化を追求していきます。

